

(2) 国・県道

ア 愛媛県内の整備状況

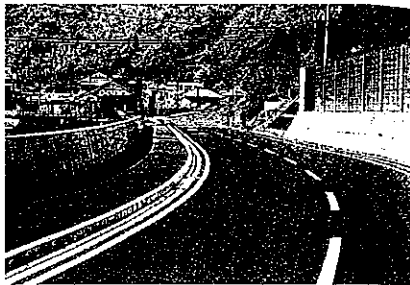
平成15年4月1日現在の愛媛県の道路改良率は67.5%と、全国水準(81.6%)を大きく下回っている。道路整備の拡充により、全国の2倍近くのスピードで向上してきたが、現在でもまだ昭和56年当時の全国水準とはほぼ等しい状況となっており、生活に身近な道路を中心に整備が遅れているのが現状である。

イ 野村町内の国道の整備状況

国道197号(鹿野川道路・野村町予子林から肱川町宇和川間)の6.7kmは、建設省大洲工事事務所が昭和59年(1984)から道路改良工事に着手して平成元年より順次供用(4km)が開始され、平成6年度末の進捗率は75%であった。その後も残る2.7kmについて改良工事が順調に進められ、平成10年(1998)最後



R197



R441

に着工となった横林大橋の架設及び坂石トンネルが貫通し、車道部2車線、歩道の整備された道路が平成11年6月（1999）に全線開通した。

また、国道441号は、県道大洲野村線を県が昭和50年（1975）から道路改良及び白髭トンネルの工事を進めていた路線で、昭和56年（1981）国道に認定され、その後も県の代行事業として溪筋地区の道路整備（白髭～旭間、全長6.68km）が順調に進められてきた。平成11年（1999）に鳥鹿野バイパスが開通したのに続き最終工区となっていた旭地区の改良工事が、平成19年（2007）に完成し、大洲市と接する白髭トンネルから、河西、野村の中心部を通り城川町へ向かう桜ヶ峠トンネルまでの間が2車線化され全線開通した。

これにより、野村町内の主要幹線道路である国道（197・441）2路線の整備が全て完了し、車両交通の安全が図られるとともに、松山自動車道へのアクセス道路として利用されることで、輸送時間の短縮や大型車による物流の効率化が進み、地域住民の生活の利便性が向上し、産業、経済、文化、観光などの活性化に大きく貢献することが期待されている。

ウ 野村町内の県道の整備状況

町内の県道は、主要地方道（29）宇和野村線・（32）肱川公園線・（36）野村柳谷線・（44）大洲野村線・（56）内子河辺野村線と一般県道（267）大茅辰ノ口線・（331）高瀬松溪線・（383）四国カルスト公園縦断線の8路線があり、年次計画に基づいて道路整備が進められているが、平成16年3月31日現在の道路改良率は43%と、県全体の改良率67.5%と比較すると整備が遅れている。

町内の県道の中でも、宇和野村線は一級河川肱川に沿って、国道56号を起点（宇和町鬼窪）として国道441号をとおり終点（野村町栗木）が国道197号に接